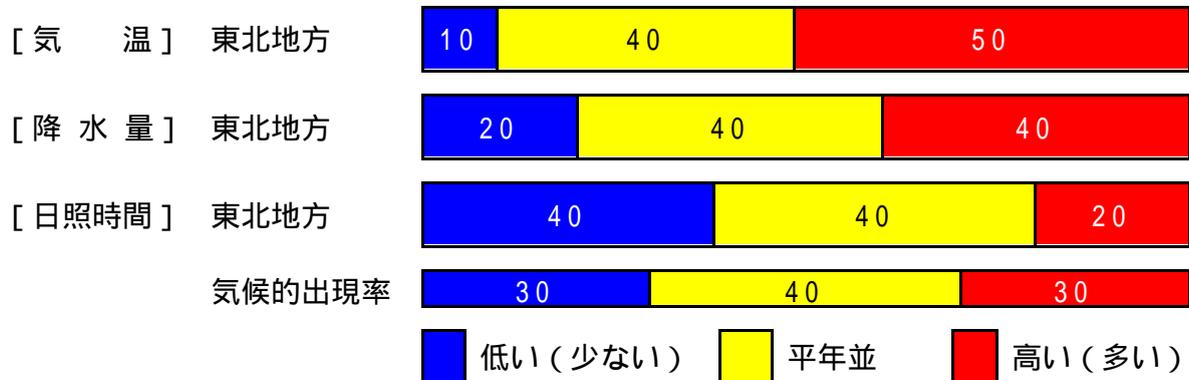


東北地方 1 か月予報の解説 (予報期間: 8 月 19 日 ~ 9 月 18 日)

平成 12 年 8 月 18 日 仙台管区気象台

1. 向こう 1 か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率 (%)



- [気 温]: 東北地方は「高い」の可能性が最も大きく、その確率は 50% です。次に大きい確率は「平年並」で、その確率は 40% です。「低い」の可能性は 10% と小さい。
- [降 水 量]: 東北地方は「平年並」か「多い」の可能性が最も大きく、その確率はそれぞれ 40% です。「少ない」の可能性は 20% と小さい。
- [日照時間]: 東北地方は「少ない」か「平年並」の可能性が最も大きく、その確率はそれぞれ 40% です。「多い」の可能性は 20% と小さい。

2. 予想される天候の特徴

(もっとも高い確率の予報が実現した場合の天候は以下の通りです。)

向こう 1 か月

この期間は、天気は周期的に変化しますが、前線の影響でぐずつく時期があるでしょう。

平均気温は高いでしょう。

平年の晴れ日数は、東北地方で約 16 日です。

各予報期間の天候の特徴

1 週目…………… 向こう 1 週間は、天気は周期的に変わり、21 日から 22 日にかけて (8 月 19 日 ~ 8 月 25 日) と期間の終わりは気圧の谷の影響で天気が崩れるでしょう。

平均気温は平年並でしょう。

平年の晴れ日数は東北地方で約 4 日です。

2 週目…………… 前線や湿った気流の影響で曇りや雨の日が多いでしょう。

(8 月 26 日 ~ 9 月 1 日) 平均気温は高い見込みです。

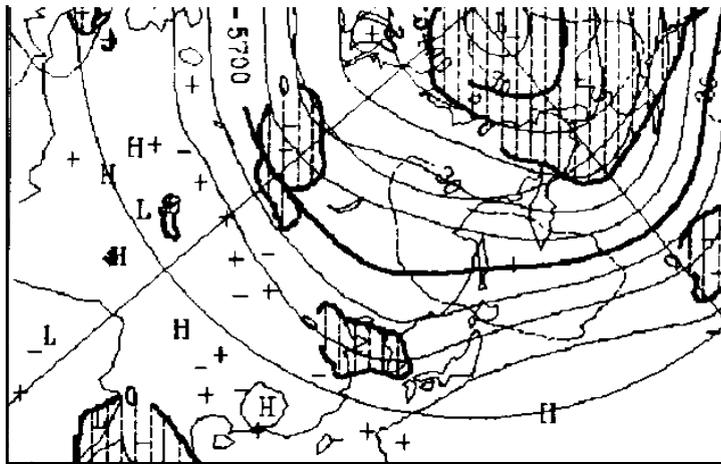
平年の晴れ日数は東北地方で約 4 日です。

3 ~ 4 週目…………… 天気は周期的に変化しますが、前線の影響でぐずつく時期があるで (9 月 2 日 ~ 9 月 15 日) しょう。

平均気温は高い見込みです。

平年の晴れ日数は東北地方で約 7 日です。

予想される天候に関する循環場の特徴 (アンサンブル平均天気図)

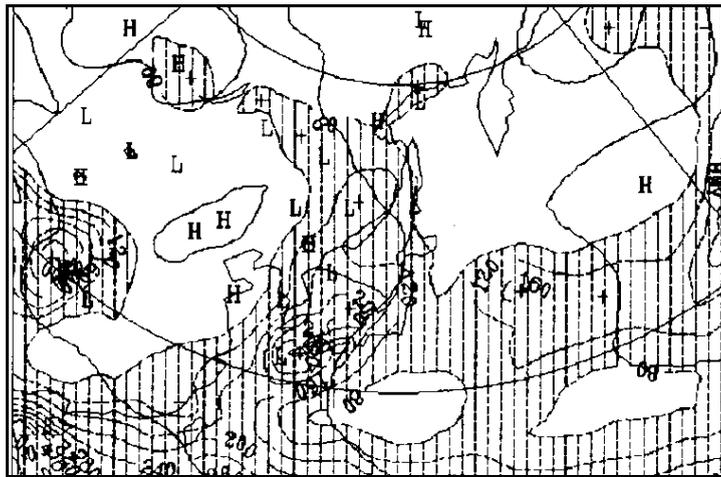


月平均の 500hPa 高度・偏差
(等高度線：60m 毎、偏差：30m 毎、陰影部：負偏差)

・500hPa 高度・偏差

月平均で見ると、日本付近は正偏差に覆われる。夏型の安定した晴天をもたらす太平洋高気圧が本州の南海上に張り出す。黄海付近に気圧の谷があり、日本付近の流れは西谷となっているため、南西から湿った気流が入りやすい。

週別 (図略) でもほぼ同様で、日本付近～東海上の高度が高く、西谷傾向が続く。



月平均の地上気圧と降水量
(等圧線：4hPa 毎、降水量：40mm 毎、陰影部：80mm 以上)

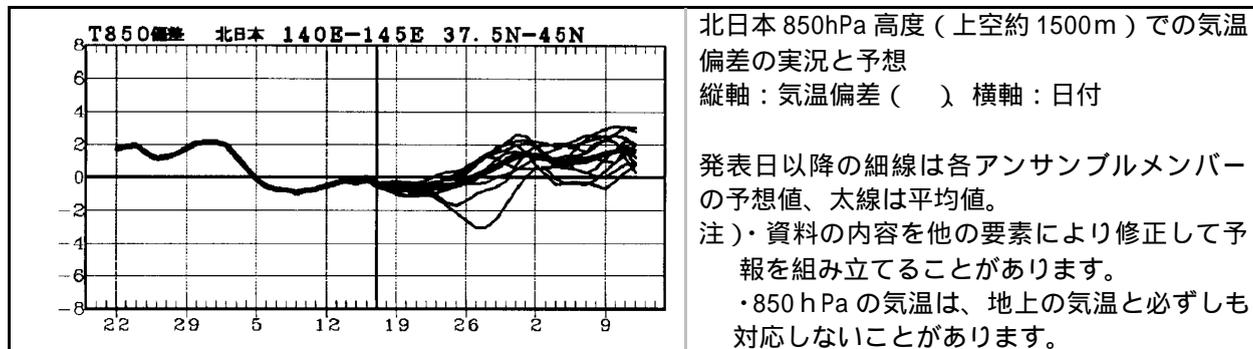
・地上気圧と降水量

月平均で見ると、関東以南は太平洋高気圧が張り出しているが、北海道付近は弱い低圧部となっている。日本海を中心に降水域が広がっており、前線や湿った気流の影響で天気がぐずつく時期がある。

週別 (図略) では、2 週目以降、東北地方に降水域がかかり、前線の影響を受けやすくなる見込み。

3. 北日本 850hPa の気温平年差の実況と各アンサンブルメンバーの予想

北日本 850hPa の気温平年差は、アンサンブルメンバーの平均でみると1週目はほぼ平年並。2週目からは高めで推移する。多くのメンバーがほぼ同様の傾向を示しており、ばらつきは大きくなく信頼度は普通程度。

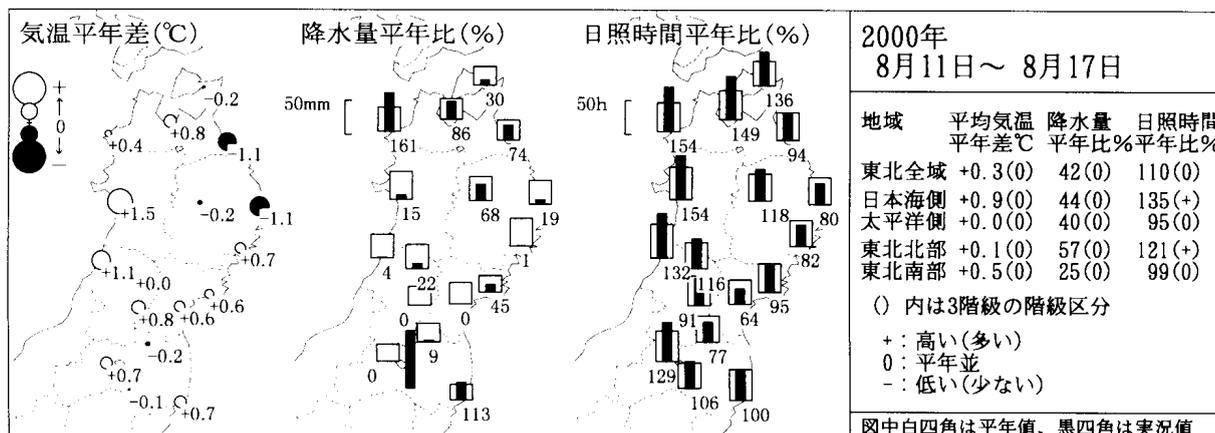


注：1か月予報では、よく似た初期値から出発した10個の数値予報結果のパラッキ具合から予報の信頼度や確率を計算します（この手法をアンサンブル予報といい、10個の予報結果のそれぞれをアンサンブルメンバーといいます）。一般に予報結果がばらつかないほど、大気の流れが予測しやすい状態にあると考えられます。このような状態の時は、信頼度が高くなり、確率の大きな予報を出すことができます。

4. 最近1週間（8月11日～8月17日）の天候の経過

東北日本海側は太平洋高気圧に覆われ晴れる日が多かった。東北太平洋側は台風第9号が日本の東海上で停滞したため、沿岸部を中心に曇りや雨の日が多く、冷たい北東風の入った太平洋側北部では低温となった。

平均気温は、東北地方で平年差+0.3℃と平年並。降水量は、東北地方で平年比42%と平年並。日照時間は、東北日本海側で平年比135%と平年より多く、東北太平洋側で平年比95%と平年並だった。



最近1週間の平均気温、降水量及び日照時間の平年差（比）